

第30号
令和7年10月発行
2025.Oct.



剣脈



▲国スポ滋賀県大会少年男子優勝

公益社団法人

福岡県剣道連盟

〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目1番1号 福岡武道館内
TEL:092-712-1890 / FAX:092-712-1891

会長挨拶



公益社団法人 福岡県剣道連盟
会長 青柳 俊彦

さらにわかりやすく
親しまれる剣道を目指して

令和七年度も折り返しをすぎました。今年も猛暑を乗り越え、会員のみなさまは日々稽古や若い方へのご指導に励んでおられることと思います。福岡県剣道連盟も事業計画にそって各事業を実施できており、みなさまのご協力に感謝申し上げます。

今回はこの半年を振り返りながら、剣道の今後の一層の普及・振興に関して、最近考えている内容をお伝えする機会とさせていただきます。こうと思います。

会長挨拶

まず、今年の玉竜旗高校剣道大会は初めて国外からの参加を迎えられるという、大きなできごとがありました。男子の部において韓国から二校の参加をいただきました。

一回戦敗退、あるいは二回戦敗退ではありましたが、礼儀正しい振る舞いに加えよく稽古していることがうかがえました。「もつと鍛錬を積んで来年再挑戦したい」と悔しがつていましたが、今後の同大会や若い世代の剣道界の活性化につながるものと楽しみにしております。

一方で、各種大会において選手の競技レベルの向上が進んでいるのに対し、審判の方々の技能レベルについて気がかりに感じるものがあります。いくつか例を挙げますと、「一呼吸の捉え方が審判によってまちまちではないか、相打ちと思われるケースでは小手より面が一本となるケースが多く、より高い位置での打突が優先されがちなのではないか」と受け止めています。昨年の世界大会でも審判二人が旗を揚げたのにもう一人の審判が追随するケースや、一人の審判が旗を揚げたのに他の二人の審判に否定される

ケースが目につきました。

試合を最も近くで、かつ複数の目で見ている審判の判断が正しい、との前提に立ちつつも、選手だけでなく観戦する方々も含めた納得性をもっと高める必要があるのではないかと考えます。近年、各主要スポーツにはビデオ判定の仕組みが整えられてきました(テニス：チャレンジ制度、サッカー：VAR、野球：リクエスト制度)。もちろん、一瞬一瞬の技の攻防を競う剣道において、試合の流れを崩しかねないビデオ判定の導入は適切ではないでしょう。ただ、審判講習会において大会のビデオを活用し、有効打突としての適否を審判の方々が検証する機会を設けるといった活用方法は考えられるのではないのでしょうか。また、急速に進化が進むAIにこれまでの試合を学習させ、先述のように三人の審判の判断が分かれるようなケースにおける特徴の分析を通し、審判として留意すべき点を洗い出す、といったことも可能かもしれません。より納得性のある審判の判断や解説がなされることにより、剣道の魅力をさらに多くの方に伝えていければ、と考えます。

目次	
会長挨拶	一
連合地区剣道連盟通信	二
各域からのご報告	四
居合道通信	七
杖道通信	九
ご報告	十
令和七年度 玉竜旗高校剣道大会	十三
第四十七回 全日本高齢者武道大会	十六
医科学安全委員会だより	
活躍への道	十七
昇格・昇段	十九
編集後記	二十三



今年度も後半に入りましたが、福岡県剣道連盟では引き続き剣道に関心と親しみを持っていただける方が少しでも増えるよう取組みを進めてまいりますので、会員のみなさまのお力添えをよろしくお願いいたします。



連合地区 剣道連盟通信



糸島剣道連盟
副事務局長
西原 芳弘

◆福岡連合地区 糸島剣道連盟

糸島剣道連盟の 活動状況について

糸島剣道連盟は、現在、剣道三段以上の会員で構成し、山地春美会長および星丸晶理事長のもと

会員二百八名(八段一名、七段三十六名、六段三十六名、五段三十八名、四段六十二名、三段三十五名)の組織となります。

令和七年度活動として

一、剣道大会の実施

- (1) 六月九日
第十六回糸島市スポーツ大会
剣道競技
- (2) 十月十二日
第四十八回糸島剣道祭兼
第六回糸島市スポーツフェスティバル
- (3) 十一月二十三日
第三十四回糸島段別選手権大会

以上の大会は糸島剣道連盟の諸先輩方から引き継いだ歴史の深い大会となり、剣道の普及および剣道を通して青少年の健全育成に努めています。

また、大会では各々の技術向上および親睦を目的とし、会員の先生方にも多数参加いただき、さらには、年間を通して地域の各種剣道大会へ審判協力をしていきます。

二、糸島剣道連盟 合同稽古会の実施

- (1) 毎週木・土曜日
(二十時三十分～長糸小学校体育館)
- (2) 新年初稽古会
- (3) 各大会前の稽古会
(大会前月曜日～金曜日迄五日間)
- (4) 各昇段審査会前の稽古会
(審査会前月曜日～金曜日迄五日間)

以上の糸島剣道連盟の稽古会は年間を通して約百日となり、毎週開催している稽古会には糸島市だけではなく、他地域の方々にも参加いただき活気ある稽古会となっています。新年初稽古会には、小学生から一般まで多くの剣士が参加し、学校や仕事などで県外在住の方も含めて約百二十名と活気あふれる稽古会となっています。各大会前の稽古会については、大会に出場する選手だけではなく、多くの先生方にも参加していただき、大会に向けて気運を高めています。また、ここ数年では糸島剣道連盟から七段・六段の高段

者を多数輩出しています。過去二年間(令和五・六年度)では、七段合格者六名・六段合格者十一名となり、会員の技術向上および地域の指導者としての指導力向上に寄与していると考えています。

最後にありますが歴代の諸先輩方が築き上げてこられた糸島剣道連盟の活動を引き継ぎ、より一層の発展に貢献するとともに、剣道の普及および剣道を通して次世代を担う青少年の健全育成に努めていきます。

◆筑豊連合地区 剣道連盟



筑豊地区剣道連盟
事務局長
長野 文彦

第二回初心中学生 錬成大会を共催

北九州連合地区剣道連盟と筑豊連合地区剣道連盟では、六月十四日(土)に北九州市立の場池体育館において、第二回北九州・筑豊連合地区初心中学生剣道錬



成大会を共催しました。

この大会は、中学校入学後に剣道を始めた中学三年生同士で剣道試合を行うことよって、中学校三年間の努力の成果を実感するとともに「剣道を始めてよかった」、「もっと剣道の稽古に打ち込んで上達したい」とさらなる意欲をもって、中学卒業後も剣道に打ち込んでいけるようになることを目的として昨年引き続き開催しました。

昨年の大会には七十三名の参加でしたが、今年は九十一名の参加となりました。

参加した中学生が卒業後も剣道が続けてもらえるよう、大会のスローガンを「継続は力なり」とし、二十三社十一剣連の協賛を得て、参加者全員に参加賞として高校生が使用する竹刀一式を呈しました。

試合は、選手にできるだけ経験させるため、原則四名での男女別リーグ戦を行い、上位二名による決勝トーナメントを行い、またリーグ戦敗退者によるチャレンジトーナメントを行い、それぞれ上位四名、決勝トーナメント準々決勝進出者の敢闘

賞表彰を行いました。

大会出場選手は、中学から剣道を始めたばかりでありながら、予想以上のレベルの試合が繰り広げられ高校進学後も充分にやれる選手ばかりでありました。

最後に、大会の目的である参加した中学生が卒業後も剣道を続けることを願うとともに、協賛いただいた方々に感謝を申し上げ、報告とします。

大会結果

〈男子決勝トーナメントの部〉

- 優勝：土井田琉維（黒崎中学校）
- 準優勝：白石 晴喜（飯塚中学校）
- 第三位：中原 盤（守恒中学校）
- 船尾 尚也（長峽中学校）
- 敢闘賞：村田 裕星（曾根中学校）
- 片山 湊吾（曾根中学校）
- 市之瀬勇己（洞北中学校）
- 荒木 咲郎（守恒中学校）

〈男子チャレンジトーナメントの部〉

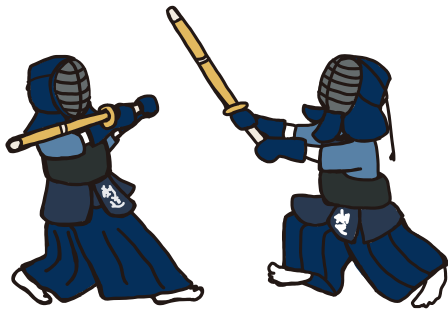
- 優勝：大塚 裕文（浅川中学校）
- 準優勝：原 優乃介（小倉新館中学校）
- 第三位：松本 佑里（曾根中学校）
- 水室 孝佳（高須中学校）

〈女子決勝トーナメントの部〉

- 優勝：兼重 莉乃（曾根中学校）
- 準優勝：田浦 百華（守恒中学校）
- 第三位：齋藤 結菜（浅川中学校）
- 平田 渚（黒崎中学校）
- 敢闘賞：蒲生 希海（高須中学校）
- 福澤 佳歩（曾根中学校）
- 齊藤 礼実（小倉新館中学校）
- 高橋 桜（沖田中学校）

〈女子チャレンジトーナメントの部〉

- 優勝：松原 寧々（菊陵中学校）
- 準優勝：古市 紫音（沖田中学校）
- 第三位：瀨野 杏果（飯塚西中学校）
- 浦崎 茉代（浅川中学校）



公益社団法人 福岡県剣道連盟 ホームページでも最新情報を公開中!

福岡県剣道連盟公式ホームページでは大会・審査会の最新情報や、各地域の動向を更新しております!スマートフォンにも対応しているので、是非ご活用ください!!

スマートフォン版は、こちらから読み取って下さい





各域からのご報告



福岡県中学校体育連盟
剣道専門部長
大森 靖雄

令和七年度第六十八回
福岡県中学校剣道大会
を終えて

福岡県チャンピオンの座と全国大会、九州大会への出場権をかけた令和七年度福岡県総合体育大会第六十八回福岡県中学校剣道大会が七月二十八日(月)・二十九日(火)の二日間、行橋市民体育館にて開催されました。

県内六地区から厳しい予選を勝ち抜いた精鋭の中学生による戦いは、見るものに感動を与え、全ての人の記憶に残る素晴らしい戦いの連続でした。

男子団体の部では、玄洋中、姪浜中、筑後中、瀬高中、八女学院中、老司中、大野東中、須恵中の八校が、女子団体の部では、飯塚日新館中、須恵中、筑後中、

大会結果

老司中、玄洋中、筑紫野南中、折尾愛真中、田川西中の八校が予選リーグを突破し、決勝トーナメントに駒を進めました。
大会結果は次の通りです。

◇男子団体の部◇

- 優勝：玄洋中学校 (福岡市)
- 準優勝：姪浜中学校 (福岡市)
- 第三位：筑後中学校 (筑後地区)
- 瀬高中学校 (筑後地区)



男子団体戦
優勝 玄洋中学校



男子団体戦
第三位 筑後中学校



男子団体戦
準優勝 姪浜中学校



男子団体戦
第三位 瀬高中学校





女子団体戦
準優勝 須恵中学校



女子団体戦
優勝 飯塚日新館中学校

◇女子団体の部◇

- 優勝..飯塚日新館中学校 (筑豊地区)
- 準優勝..須恵中学校 (筑前地区)
- 第三位..筑後中学校 (筑後地区)
- 老司中学校 (福岡市)



女子団体戦
第三位 老司中学校



女子団体戦
第三位 筑後中学校



女子個人戦
入賞者

- ◇女子個人の部◇
- 優勝..山内虹奈 (玄洋中)
 - 準優勝..吉松織乃 (須恵中)
 - 第三位..山本明里 (北野中)
 - 有村早乃 (須恵中)



男子個人戦
入賞者

- ◇男子個人の部◇
- 優勝..石松健翔 (城山中)
 - 準優勝..菅原漣 (八女学院中)
 - 第三位..原田蒼生 (飯塚日新館中)
 - 平方煌成 (玄洋中)

今年度の高体連事業のひとつに「審判技量の向上」をあげ、ブロックごとに審判講習会を開催しました。内容としては、公式戦とは別に大会を実施し、一試合ごとに講師の先生からの指導を受け、審判業務を振り返ることで審判技量の向上を図ったり、教員と生徒と一緒に審判員に立つ機会を作り、教員の審判技量の向上と生徒の剣道全般の技量向上につなげるなど、各ブロックにおいて実情に応じながら、工夫した講習会を実施することができ成果をあげることができました。

今年度の競技力の面においては、全国大会・九州大会で今年も優勝をはじめ、数多くの入賞を果たすなど活躍してくれました。多くの学校や個人の活躍が見て取れ、層の厚さを感じ

活動報告



福岡県高体連剣道専門委員長
八女高等学校
畑江 秀彦

各域からのご報告



普及面においては、グローバル化が進む世の中と同様、玉竜旗大会において韓国の学校の参加を受け入れ開催したことは、高校剣道界のひとつの大きな変化と言えます。今後、玉竜旗大会をどのように発展させることが、高校剣道界の普及発展につながるのか、考えていかなければならないと感じました。

人口問題については、メディアの活用や剣道に触れる機会を提供するなど、剣道への関心を高めていく取り組みが全剣連で行われています。世界的には剣道人口が増えているものの、国内の剣道人口の減少に歯止めがかからない。さらに全国的に見た場合、高校に入ってから五割の生徒が剣道から離れていっている現状をどう捉え、どう対処しなければならぬか、本県としても模索しているところです。次世代の剣道界を担っていく人材育成は、若手、ベテラン関係なく、指導者全員が重要課題として捉え、それぞれが足元から改善へ取り組みなければならぬと考えています。

大会成績

九州高等学校選抜剣道大会(沖縄県)

男子団体 第3位 福大大濠
 女子団体 第3位 福翔
 男子個人 優勝 森 大颯(福大大濠)

全国高等学校剣道選抜大会(愛知県)

男子団体 準優勝 福大大濠 ベスト8 福岡第一
 女子団体 第3位 中村学園女子

令和7年度 福岡県高等学校総合体育大会剣道大会

男子団体 優勝 福大大濠	準優勝 福岡第一
	第3位 福岡舞鶴 東福岡
女子団体 優勝 中村学園女子	準優勝 福翔
	第3位 福岡舞鶴 福岡第一
男子個人 優勝 林 晃毅(福大大濠)	準優勝 森 大颯(福大大濠)
	第3位 矢野 佑紀(福大大濠) 第4位 永見 允(西南学院)
女子個人 優勝 吉松 美織(中村学園女子)	準優勝 福園 紅音(中村学園女子)
	第3位 牛嶋 柚希(中村学園女子) 第4位 三代 菜日琉(福岡第一)

令和7年度 全九州高等学校剣道大会(宮崎県)

男子団体 優勝 福大大濠	準優勝 林 晃毅(福大大濠)
女子団体 優勝 中村学園女子	ベスト8 大末 雅也(東福岡)
男子個人 優勝 森 大颯(福大大濠)	第3位 牛嶋 柚希(中村学園女子) 小野 和奏(中村学園女子)
女子個人 準優勝 吉松 美織(中村学園女子)	ベスト8 福園 紅音(中村学園女子)

玉竜旗高校剣道大会

男子 優勝 福大大濠	ベスト8 東福岡 福岡第一
女子 第3位 筑紫台	ベスト8 中村学園女子

全国高等学校総合体育大会剣道大会(広島県)

女子団体 優勝 中村学園女子	準優勝 林 晃毅(福大大濠)
男子個人 優勝 森 大颯(福大大濠)	

国民スポーツ大会九州ブロック大会

少年男子 第1位 (滋賀国スポ出場権獲得)



福岡県警察
剣道首席師範
蓮尾 孝幸

福岡県警察剣道特練の
活動報告

はじめに、日頃から福岡県警察
剣道特別訓練員の活動にご支援
をいただいている皆様方に対し、
心より感謝申し上げます。現在特
別訓練員は、これまでにない猛暑
の中で熱中症対策と感染予防を
徹底し、日々厳しい訓練に励んで
いるところであります。

これまでの各種大会にありま
しては、四月二十日に開催された
国民スポーツ大会選手候補選考
会において成年男子の部で「先
鋒」池田虎ノ介、池田龍ノ介、田城
徳光、「次鋒」國友錬太郎、望月脩
平、加幡直樹、「中堅」松崎桂一郎、
「副将」森祐輔の八名が勝ち残り
ました。成年女子の部では「先鋒」
妹尾舞香、柿元冴月、「大将」宮本
真沙代の三名が強化指定選手と
なって滋賀県で開催される国ス
ポ大会に向け、県剣連主催の強化
訓練に参加しています。

六月二十一日に開催された全
日本女子選手権予選では、優勝妹
尾舞香、二位柿元冴月。また六月
二十二日の全日本男子選手権予
選では、優勝田城徳光、二位國友
錬太郎、三位池田龍ノ介という好
成績を収め、十一月三日に日本武
道館で男女同日開催される全日
本剣道選手権大会に福岡県代表
として福岡県警察から五名が出
場いたします。

七月二日に開催された九州管
区内警察剣道大会では、強豪ひし
めく九州ブロックにおいて、男子
団体戦は八県総当たりのリーグ
戦がおこなわれ、福岡県は四年振
りの優勝を成し遂げ、二位大分
県、三位宮崎県という結果とし
た。また二人制の女子団体戦は、
優勝宮崎県、二位熊本県、三位福
岡県となりました。大きなプレッ
シャーを乗り越えて全力で頑
張ってくれた選手達に心から敬
意を表したいと思います。

今年も全日本剣道連盟から通
知をいただき、二〇二七年開催予
定の第二十回世界剣道選手権大
会に向けた強化候補選手講習会
に、男子では水田千尋と池田虎ノ
介、女子は妹尾舞香と柿元冴月が

選ばれました。しかし、まだまだ
強化訓練は始まったばかりであ
り、これから世界大会まで数回の
強化候補選手講習会が行われ、最
終的に世界で通用する男女各十
名の選手が選ばれることになり
ます。是非ともこの四名には最後
まで頑張ってください、日本代表
として世界の舞台で活躍してほ
しいと切に願っています。

最後になりますが、これから秋
の各種全国大会が控えておりま
す。今後も選手と指導者が一枚岩
となって目標達成のために日々
精進していく所存でありますの
で、皆様方の温かいご指導ご鞭撻
をよろしくお願いいたします。



居合道通信



居合道部
副会長
小田 信秋

第五十八回
福岡県居合道大会・報告

去る七月十九日(土)、福岡武
道館にて第五十八回福岡県居合
道大会が百八十一名の参加にて
開催されました。

福岡剣道連盟副会長、迫野範
士の「大会の意義と効用」につい
てのご挨拶から始まり、昨年度
団体戦優勝の北九州居合道同好
会「右肩上がり」の大将を務めた
森英子選手の優勝杯返還。そし
て少年の部のリーグ戦、無段の
部、六段の部までのトーナメン
ト試合と四試合会場にて熱戦が
繰り広げられました。その後、七
段の先生方の優秀演武また最優
秀演武賞を決める決定演武と続
き井手烈太郎七段が最優秀演武
者に輝きました。この大会での



五段・六段・七段の優秀者が十月に行われる全日本出場候補者として強化練習会に招聘され、更に高みを目指すこととなります。

お昼を挟んで、いよいよ盛り上がりを見せます団体戦の試合が始まりました。

先鋒(初段)中堅(二段)大将(三段)の組み合わせですが、所属団体でチーム編成の出来るところとそうでないところは他団体との混成チームにて臨みます。二十四チームがエントリーしてのトーナメント試合となりました。各会場で熱戦が繰り広げられました。昨年と先鋒、中堅メンバーが入れ替わって臨んだ北九州居合道同好会の森英子選手率いる「ごぼう抜き」チームが団体戦優勝となりました。

今回も六歳から九十五歳と年齢差はありますが誰もが参加できる大会をと総務委員会を中心に綿密に計画し実行され、そして参加者全員が楽しいと感じる大会になりました。

県大会会場としては最後になる大濠公園横の現福岡武道館関係者、そして福岡県剣道連盟関

係者に感謝、お礼を申し上げて、大会報告とさせていただきます。

福岡県居合道大会入賞者個人・団体の部

少年の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	横田 路史 (北九同)	柴田 千照 (宗像同)	安藤 麻琴 (早良同)	小川 詩乃 (飯塚同)	
	敢闘賞	敢闘賞	敢闘賞	敢闘賞	
	田尻 淳之亮 (北九同)	上杉 泉貴 (宗像同)	幸田 春人 (飯塚同)	徳永 心春 (北九同)	
	敢闘賞	敢闘賞	敢闘賞	敢闘賞	
無段の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	柴田 歩侑 (宗像同)	清水 幸輝 (北九同)	横田 路広 (北九同)	嶋津 詩月 (田川同)	
	敢闘賞	敢闘賞	敢闘賞	敢闘賞	
	渡邊 世統 (飯塚同)	山下 悠月 (武道館)	安藤 麻紘 (早良同)	野田 航志郎 (滴水塾)	
	野口 倫太郎 (福岡武)	追田 瑞穂 (田川同)	小副川 和夫 (粕谷同)	渡部 功一 (宗像同)	
初段の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	高井 良愛貴 (北九同)	姫野 偉伊 (八女同)	美田 佳奈 (宗像同)	矢田 雅昭 (宗像同)	
二段の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	井藤 惇仁 (小倉南)	渡邊 煌 (飯塚同)	森山 英徳 (北九同)	立石 慶太 (北九同)	
三段の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	今田 圭一郎 (北九同)	森 英子 (北九同)	松嶋 亮幸 (錬心館)	山中 俊二 (尚武会)	
四段の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	原田 絵里 (飯塚同)	丹 悦夫 (若松同)	渡邊 弘美 (博錬会)	吉尾 孝博 (田川同)	
五段の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	松田 武尊 (北九同)	森田 明美 (若松同)	物部 吉秀 (宗像同)	甲斐田 裕史 (倫武会)	
六段の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	ジェームズ・ジャック (滴水塾)	佐伯 伊勢雄 (福岡武)	安本 誠一 (千代剣)	金城 和枝 (倫武会)	
団体戦の部	第1位	第2位	第3位	第3位	
	ごぼう抜き (北九同)	心外無刀 (八女同)	一期一会 (北九同)	千代三匹の侍 (千代剣)	
最優秀 演武者	井手 烈太郎 (錬心館)	優秀 演武者	荒木 正亨 (福岡武)	優秀 演武者	中島 浩 (田川同)

杖道通信



福岡県剣道連盟
杖道部 理事
城台 順子

仏ウイトリレランス 杖道稽古会報告 「フランスに根付く福岡の杖」

ウイトリレランスは、人口五千人ほどのフランス東北部の小さな街です。

地平線まで続く麦畑の中をパリから車で二時間ほど走るとスタジアムと体育館の施設があります。

静かで整った環境の中で今年の六月七日から九日の三日間、思いう存稽古に専念することができました。

ここにフランス(パリ、リール、ボルドー、ランス)、ベルギー(ブリュッセル)、オーストリア(ウィーン)から有志の求道者が四十名ほど集まり杖道の研鑽を行いました。



稽古内容は、全日本剣道連盟杖道形、神道流剣術、神道夢想流杖術(表、中段、影、五月雨、仕合口)。富永彰三師範のもと、福岡に伝わる古流を稽古し、言語を超えた間や技の感覚、礼法の理解が深まりました。

また、先生に同行した甲斐田裕文氏と永田洋介氏がユニオン新聞に掲載され、杖道が共感を持って受け入れられています。

この稽古会を主催されたフレデリックメジラス先生と暖かく迎えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

彼らの杖道に対する熱意と努力は心を打つものがあります。

一昨年フレデリック氏とその門下生は福岡県杖道大会に参加し、団体戦優勝、門下生らはそれぞれの段位で、個人優勝されました。

実績に裏打ちされた着実な心技の向上を物語っています。



今回でフランスでの稽古会は四度目となり、日仏の杖道普及の取り組みに対し、ウイトリレランス市長自ら富永先生にメダルが授与されました。



富永先生がフランスに蒔かれた杖道の種が今実りつつあります。

まず自分自身がしっかりと稽古をし、福岡の伝統と心を携えて国際交流を継続して参ります。

杖道通信

ご報告



東福岡高等学校
儀武 純一

第六十三回剣道中堅剣士
講習会を終えて

令和七年六月六日～八日の二泊三日の行程で、各都道府県から四十六名の受講者が奈良県のルート奈良武道場に集い、講習会が開催されました。全剣連会長の網代会長をはじめ、中谷専務理事と七名の範士八段の講師陣の先生方がおられる中で、開講式が始まり身の引き締まる思いでした。

まずはじめに網代会長より、本講習会の歴史や受講生への講習会に臨む心構えなどを中心に講話がありました。その後、奈良県の松田講師を中心に「指導法」の講習に続きました。礼法から始まり所作、竹刀の取り扱い素振りへと移行し、握りや手の内、

身体運用、発声など、本数を繰り返すことで、さまざまなことを意識しながら取り組みました。さらに面を着用し、切り返し・打ち込み稽古と数をかける内容で、息が上がり、体力的に厳しくなる中で、気力を充実させることの重要性を改めて痛感しました。最後は講師の先生方が元に立たれ、指導稽古により初日が終了いたしました。

二日目は中谷専務理事よりコンプライアンスに関しての講話があり、剣道界だけでなくさまざまなTPOに応じて配慮しなければならぬと感じました。

続いて日本剣道形、昼食をはさみ、木刀による剣道基本技稽古法の講習があり、刀法や目付け、理合や呼吸法など今までの再確認だけではなく、より高い段階での指導をいただきました。その後は、気力・体力ともに限界に挑むような区分稽古があり、講習生同士で声を掛け合い乗り切ることができました。

三日目は「審判法」の講義が茨城の香田講師を中心に実施されました。鏑迫り合いに多くの時間が割かれていた試合内容を、

立会いでの充実した技の応酬への試合内容にしていくなには、現在の試合・審判法を審判員がしっかりと運用していく必要があるとの内容でした。また、位置取りの重要性、有効打突の見極めの難しさを再確認できる良い機会になりました。

現在、高校の教職に就いており、特に部活動を通して高校生に剣道指導をしている立場の私にとって、この三日間の講習会是非常に有意義な内容の講習会でした。試合中心に偏ることなく、文化的な継承と競技的側面をしっかりと調和させ、将来、剣道界のみならず日本の発展に大きく貢献できる人材を育成できるように、改めて自分自身を磨いていかなければならないと思いました。

末尾になりますますが、講師陣の先生方と本講習会に参加の機会を与えていただいた福岡県剣道連盟の先生方に感謝申し上げます。報告とさせていただきます。



剣道錬士六段
前田 美香

第十八回女子剣道指導者
講習会受講結果報告

日時 令和七年五月二十四日(土)～二十五日(日)の二日間

会場 静岡県剣道連盟道場「養浩館」

一 目 目

① 講話

「女子指導者への期待」

全日本剣道連盟副会長
真砂 威様

・現在の有段者数二百八万人超、うち女性の割合は昨年三十%を超え、女性指導者の活躍に期待大である。

・段位審査の着眼点の一つ「勝負の歩合」について、「理合」「風格」「品位」をどのように幅広く見るか、審査員相互で認識を共有。実力のある人を見つけ出す「審査眼の進化」女性合格率が上がった。

- ・ 剣道の歴史、二度の剣道存続の危機、戦後の剣道復活に伴う女子剣道の芽吹き、伝統・文化。
 - ・ 「相抜け」相手に空を切らせ心の勝負で勝つ。刀の勝負より心の勝負を学ぶことの意義・・・など。
- ◎ 剣道を正しく継承する役目について、改めて身が引き締まる思いでした。

② 日本剣道形

中田 琇士 講師
松田 勇人 講師

- ・ 礼法、所作、木刀(刀)の操作、なぜそうなるのかを一つ一つ解説いただく。
- ・ 一本一本について、構え、打突(刃筋)、鎧の使い方、足さばき(体さばき)を詳しく解説・・・など。

◎ 日本剣道形は日ごろから地域でも講習会資料、解説書を用いて勉強していますが、講習会でご指導いただき、再認識よりも新たな発見が多く、二時間の講習があつという間でした。

太刀の形は「機を見て打つ、

小太刀の形では「入り身になろうとすると打つ」とありますが、「小太刀の形も機を見て打つのだよ」とおっしゃるのを実演いただき、一連の動作のキレと美しさに大変感銘を受けました。

二日目

① 木刀による剣道基本技稽古法

濱崎 満 講師
数馬 広二 講師

- ・ 木刀による基本技稽古法を習得することが基本、竹刀稽古に活用していく。また、日本剣道形への移行がスムーズにいく。

② 指導法(基本動作)

- ・ 剣道指導要領に記載されている内容の再確認。
- ・ 二人組で、実際に相手の面を打つ意識で、相互に素振り。
- ・ 面を付けた切り返し受け方の指導(左手は正中線)。
- ・ 正しい打突の仕方と、打たせ方、受け方。
- ・ 変化のある回し稽古の仕方など。

③ 指導法(応用編)

- ・ 攻め合い(三殺法)、中心を外さない攻め合いの重視。
- ・ しかけ技、応じ技。
- ・ 正しい鍔ぜり合いと、鍔ぜり合いからの技。
- ・ 打ち込み稽古と掛かり稽古の違い。

全体の所感

各地から約七十名の女子剣士が集まり講習会が開催されました。

内容はいずれも濃く、深く、腑に落ちるものばかりで、正しい所作、基本がいかに大事かと、子どもたちに正しく伝えることの責任を再認識しました。

今回学んだことを、普段の稽古でも実践し、剣道の正しい普及・発展に寄与すべく、地域の方々にもお伝えしたいと存じます。

このような素晴らしい講習会に参加させていただき、貴重な経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。

女子委員会発足にあたって



女子委員会
中山 伊織

令和元年に設置された全日本剣道連盟の女子委員会の趣旨「女子剣道の普及・発展」を踏まえ、今年度、本県でも女子委員会が発足しました。女子委員会の活動として、まずは「女子講習会」と「なでしこ親善剣道大会」を充実させ、女性指導者の育成や女性剣士相互の交流を図り、福岡県の剣道の普及・発展につなげたいと考えています。

「女子講習会」は、平成二十七年に第一回が開催され、今年度で十一回目を迎えました。講師の先生方のご指導により、講習会後に実施しているアンケート調査から、受講生の満足度が高く実践的な内容になっていることが伺えます。この講習会は三段以上から参加できるので、審判や指導経験のない方、初めて講習会に参加される方もいます。毎回三十名ほどが家事や仕事を調整して、剣

道技能の向上や指導力、審判技量を高めようと研鑽を積まれています。このような中、受講生のニーズに合った、ともに学び合い、今後も参加したいと感じられる有意義な講習会になるよう、これからも指導委員会と連携しながら企画していきたいと思えます。

「福岡県なでしこ親善剣道大会」は、「全国家庭婦人剣道大会」が改編されて「全日本都道府県対抗女子剣道大会」になった際に、女性剣士の技術向上、健康増進、剣道の普及・発展を目的に開催されるようになりました。令和五年度までは年齢別の個人戦が行われていましたが、福岡県剣道連盟事務局、事業委員会の先生方にご助言いただきながら、昨年は団体戦を実施することができました。

最後になりましたが、女子講習会や、なでしこ親善剣道大会の充実、女子委員会発足に向けご尽力された前理事の永沼真紀先生、今井薫美子先生はじめ諸先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。今後もお指導いただきながら、女子剣道の普及・発展のために女子委員会の活動に取り組んでいきます。

賛助会員募集

公益社団法人福岡県剣道連盟では、当連盟活動の趣旨に賛同し、事業を支援していただける団体(法人)様を募集しています。

当連盟活動の趣旨にご賛同いただき、賛助会員になられますと、

1. 当連盟の刊行物にお名前(企業・団体名)を掲載いたします。 ※全ての刊行物ではございません。

2. 当連盟のホームページに「バナー」を設置し、リンクいたします。

賛助会員としてご支援頂ける場合、福岡県剣道連盟ホームページ内「賛助会員のご案内」より入会申込書をダウンロード後必要事項をご記入の上、事務局宛にご送付下さい。

追って、事務局よりお振込先の口座をご案内いたします。

【申込書送付先】

〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目1番1号 福岡武道館内
公益社団法人 福岡県剣道連盟 事務局

スマートフォン版は、こちらから読み取って下さい



現在、株式会社サエキジャパン 株式会社エイケン 株式会社インターフォース 株式会社シーアンドイー 株式会社コアズ九州事業本部 株式会社西日本新聞社 株式会社クラフティア(旧㈱九電工) 株式会社福岡銀行 株式会社西日本シティ銀行 西部ガスホールディングス株式会社 西日本鉄道株式会社 九州電力株式会社 九州旅客鉄道株式会社 有限会社オートリサイクルナカシマ福岡 ALPHA AUTO にご支援頂いております(敬称略)



玉竜旗大会 十人
五人抜き達成感想



大濠高等学校
三年 亀山 浩武

玉竜旗で五人抜きを達成できたことは、私にとって大きな自信となりました。試合前には緊張もありましたが、日頃の稽古の成果と森先生の教えを信じ、「仲間のために戦う」という強い気持ちを持って挑みました。先のことは考えず、一戦一戦、目の前の相手に集中し、気持ちでは絶対に負けないよう心がけました。相手を抜く中で体力的に苦しい場面もありましたが、そのたびに力を振り絞って戦い抜くことができました。今回の五人抜きという結果は、指導してくださる先生方や応援してくださる保護者の方々、そして一緒に切磋琢磨してきた仲間たちのおかげです。この感謝の気持ちを忘れず、これからも稽古に励んでいきます。

私の剣道人生はまだ始まったばかりです。支えてくださる方々への感謝を胸に、日本一という目標に向かって、さらに強くなれるよう努力していきます。



福岡第一高等学校
三年 村田 寛太

玉竜旗で十人抜きを達成できたことは嬉しい反面、驚きも感じました。私自身が何人かを勝ち抜きたいという気持ちはなく、一戦一戦目の前の相手に集中した結果が勝利に繋がったからです。また、試合中は雑念を捨て無心になっていくことも一因であると感じています。この結果は、技術面や体力面だけでなく、精神面の成長が大きく影響していると考えます。試合前は強い緊張を感じていましたがその緊張を制御し集中することができたからです。

今大会は私にとって特別な大会であり、支えてくれた方々へ恩返しをしたいと強く思い臨みました。その為に、これまでの稽古の成果を出し切ろうと覚悟を決めたことが結果に繋がったと感じます。この経験を糧に今後も努力を重ねます。



久留米商業高等学校
二年 國吉 世暁

私は今回初めての玉竜旗出場だった。玉竜旗は小学校のころから注目していた程度も見えていた大会だ。また、三年生にとっては高校最後の大会である。二年生で先鋒を任せられ、緊張すると同時に絶対にチームに勢いをつけるという意

令和七年度玉竜旗高校剣道大会

気込みで試合に臨んだ。

会場の人の多さや場の盛り上がりなどが他の大会とは違う雰囲気だったが、私は歓声も聞こえないくらい集中できていた。相手は遠い北陸から来たチームだった。試合が始まり、動きは少し硬かったが、相手の動きをよく見て確実に一本を決めることを意識して試合をすることができた。

五人抜きを達成できたのは自分の力だけでなく日頃指導してくださる先生方、お互いに励まし高め合う仲間、いつもサポートしてくださる保護者の方々の力があつたからだと思う。今回の経験を糧にこれから新チームでより良い結果が残せるようチーム一丸となって頑張っていきたい。



魁誠高等学校
一年 大野 結斗

玉竜旗の前に、私は基礎を大切にして稽古に力を入れてきました。素振りや足さばきなどの基本を毎日積み重ね、どんな場面でも自分の剣道ができるように心がけました。また、仲間との稽古では互いに指摘し合い、励まし合いながらチーム全体の力を高めていきました。高校最後の玉竜旗では、先鋒を任せられた緊張感を抱きつつも、気持ちを切りさず一戦一戦相手に集中しました。結果として、一回戦で五人抜きを達成したとき、喜びよりも「仲間や親、先生方の期待

に込めることができた」という思いが強かったです。この成果は自分一人の力ではなく、日々支えてくれた親、たくさん指導してくれた先生方、そして一緒に汗を流してきた仲間達のおかげだと強く感じています。

この経験を通して、努力を続けることの大切さを学びました。これからも感謝の気持ちを忘れず、今以上に成長できるように頑張っていきたいと思っています。



福岡高等学校
三年 井上 晃太郎

今回の玉竜旗では、先鋒として出場し、自分の持てる力を出し切る気持ちで挑みました。試合の序盤は思うように体が動かず苦しい場面もありましたが、これまでの稽古や仲間との絆を胸に戦い抜いたことで、結果として五人抜きを果たすことができました。

この結果は、日々熱心にご指導くださった先生方、支えてくれた家族、そして共に汗を流し、どんな時も励まし合いながら乗り越えてきた仲間のおかげだと強く感じています。

私の学校は文武両道を掲げており、ここで剣道は一区切りとなります。これからは受験勉強に全力を注ぎますが、剣道で学んだ粘り強さや仲間を思う心を大切に、文武両道の精神を胸に歩んでいきます。そして、これからの人生でも「剛健成風」の言葉を忘れずに努力を続けていきます。



東筑高等学校
二年 田上 快莉

「玉竜旗」という大舞台で五人抜きを達成することができ、大きな達成感とともにこれまでの努力が報われた思いでいっぱいです。

初戦では、自分の実力が発揮しきれぬかなどといった不安や緊張に苛まれ動きが硬かったのですが、一本を取って気持ち切り替わり、徐々に自分の剣道に集中できるようにになりました。また、相手と対峙する際には必ず「絶対に負けない」という気持ちを持つようにはしていました。

この結果は決して一人では成し得なかったものです。日々の稽古をつけてくださった先生方や共に練習に励んでくれた仲間たち、そして応援してくださいました保護者の方々に心から感謝しています。また、これに満足せずに今後も更なる上達のために精進していきたいと思えます。



筑紫台高等学校
三年 和多 ことはく

この度、高校剣道玉竜旗大会にて十人抜きを達成することができました。自身、玉竜旗という大会は小さな頃からの夢でもありました。筑紫台に入学してからは、レベルの高さに驚かされながらも、当たり前前に日本一を目指す環境に心も剣道も鍛えていただきました。

ですが、昨年の夏に大きな怪我をしてしまい、選手としての試合に出る道を断念する時期もありました。しかし、その直後に先輩方がこの大舞台で三位という結果を残し、私も諦めずに「残りの一年をやり切ろう」と決断することができました。そこからは様々な人の力と想いを借りて一生懸命頑張り、今回先鋒として起用していただきました。

先鋒として私にできることは、チームの流れをつくること、ただそれだけに集中し一戦一戦勝負しました。最後まで私を信じてくださった監督の金森先生、そして高校剣道で出会えた全ての方に感謝し、次のステージでも頑張りたいです。



中村学園女子高等学校
一年 木原 愛由花

私は、今回初めての玉竜旗で五人抜きをさせていたでいて、少しではありますチームの力になれて嬉しかったです。初めての玉竜旗であり、高校になって初めて公式戦で、緊張もしたのですが、それ以上にチームのために勝ちたいという熱い想いが込み上げてきて戦い抜くことができました。また、自分が選手として出ることによって出られない先輩方の想いや、上で応援してくださいる保護者の方々、後援会の方々、そしてOGの先輩方のことを考えると何がなんでも勝ちたいという執念に変わりました。二回戦で四人抜きまで抜くことができ、十人抜き達成とはなりませんでしたが

が、この経験が来年への糧になったことは間違いありません。チームとしても準々決勝で敗れこの玉竜旗で優勝したかったので本当に悔しいです。来年の大会までに一回戦から決勝まで戦える体力と気力を身につけ、今年度よりも活躍できる選手になりたいと思っています。

が、この経験が来年への糧になったことは間違いありません。チームとしても準々決勝で敗れこの玉竜旗で優勝したかったので本当に悔しいです。来年の大会までに一回戦から決勝まで戦える体力と気力を身につけ、今年度よりも活躍できる選手になりたいと思っています。



春日高等学校
二年 牛島 杏珠

玉竜旗では五人抜きをすることができました。試合前は大きな大会の一試合目ということでも緊張していましたが、「いつも通りにやっつきな」と言われたことや後ろに心強い四人がいることと安心感、チームの特徴でもある明るさに背中を押され、自分らしい剣道で試合に臨むことができました。

試合中は、とにかく足を動かすことを意識しました。一人目に勝ったときは少し安心しましたが、ここからが本番だと気を引き締めました。二人目、三人目を抜いて四人目のときはなかなか噛み合わず、少し苦戦しました。最後の五人目では、相手が上段の構えをした瞬間は少し焦りましたが、冷静に試合ができ良い技を出すことができました。

今回の玉竜旗で五人抜きを達成できたことは自分の中で大きな自信となりました。これからは自分達の代となる

ので更に気を引き締めて稽古に励んでいきたいです。



宗像高等学校
一年 兼屋 心寧

私は、今回先鋒として玉竜旗に出場しました。

中学生の頃、この大舞台で五人抜きをする高校生の姿を見て強い憧れを持ちました。私も五人抜いてやるという気持ちを持って、一生懸命稽古に励み試合に臨みました。しかし、いざこの大きな会場に立ち試合をするとなると、体が硬くなりとても不安な気持ちでいっぱいでした。

そんな中、先生方や先輩方が「一人じゃないよ。後ろには先輩がいるから自信を持って思いっきり試合をして大丈夫」と励ましてくれました。また、毎回遠い所まで朝早くから送迎をして下さる保護者の方々など、沢山の支えがあり、目標であった玉竜旗での五人抜きをすることができました。本当は三年生の先輩方と一試合でも長く試合ができるように七人、八人、十人…と抜きたかったのですが、力が及びませんでした。

これからも稽古に精進し、今年の戦績を超えられるよう努力し続けたいと思います。



福岡県立育徳館高等学校
一年 嬉野 孝美

玉竜旗高校剣道大会で五人抜きを達成し、敢闘賞をいただくことができました。達成感も大きいですが、それ以上に自分の未熟さを痛感した試合でもありました。

初戦では、大将戦まで勝ち進みあと一歩というところで引き分け。チームは勝利したものの五人抜きは達成できませんでした。

監督から「一本を大事に、見応えのある試合を」と指導を受け、その言葉をもとに二試合目に挑みました。二試合目では無事に五人抜きを果たしましたが、十分に納得できる内容ではありませんでした。中堅戦でスタミナも切れ、技も単調になるなど、課題がはつきりと見えた試合でした。

先鋒として一年生でこの貴重な経験ができたのは、ご指導くださる先生方、いつも応援してくれる保護者の皆さま、そして共に戦うチームメイトのおかげです。心から感謝しています。来年どんな役割を任せても、自分の持てる力を全て出し切れるよう、これからも努力を重ねていきたいと思えます。ありがとうございます。



福岡常葉高等学校
一年 深澤 琴美

私は七月二十五日に行われた玉竜旗高校剣道大会で五人抜きしました。

今大会までの期間、先生方からの厳しいご指導の下、仲間と共に一つでも上へと勝ち上がることを目標に稽古に励みました。この目標に加え、私は「玉竜旗五人抜き」を先生との共通の目標にしてみました。五人抜きという目標を達成したいと思う一心から、きついとき、苦しいときこそ「目標を達成するため」と強く思い、稽古をしていました。

試合当日、私は今までやってきたことを思い出し、信じて試合に臨むことができました。先鋒から大将へと勝ち抜いていく中で、「絶対に五人抜きしてやる」という思いから、咄嗟に出た技の方が多かったです。「玉竜旗五人抜き」という先生との目標を達成できたときは、「今までやってきたことは無駄じゃなかった」と思うことができました。

指導してくれた先生、応援してくれた保護者の方、携わってくれた全ての人に感謝して、これからの稽古に励んでいきたいです。



南筑高等学校
二年 井口 七南

私は目標としていた玉竜旗で五人抜きを達成することができとても嬉しく思います。私がこの目標を達成できたのは、日頃の練習をご指導してくださった先生方、支えてくれた家族、一緒に戦った仲間がいたからこそ達成できた目標だと思います。

一試合目からいい流れをつくり二、三試合と続いていく中で、どんな試合に對する思いが強くなっていました。この経験は今までもない体験でもあり、これからの繋がる体験をすることができました。試合が終わった後には保護者の方や仲間達が「凄かったね」「おめでとう」と言ってくれてとても嬉しかったです。この経験を今後の剣道にもいかし、新しい目標に向かって頑張っていきたいです。



小倉東高等学校
二年 古手川 由莉奈

玉竜旗大会という夢の舞台で五人抜きを達成することができたのは、これまで支えてくださった先生方や仲間のおかげです。自分一人の力だけでは決して成し遂げられなかった

と思います。試合中、なかなか一本にならなく焦ってしまった場面もありましたが、仲間の声援が力となり、最後まで落ち着いて試合をすることができました。チームに大きく貢献できてとても嬉しかったです。

この経験を忘れずに仲間と共にさらに高いレベルを目指し、努力していきたいと思っています。



福翔高等学校
三年 鳥飼 晴子

私にとって、今回の玉竜旗に高校最後の試合なるため、悔いが残らないように、一人でも多く抜いてチームのために戦うという気持ちで試合に臨みました。チームに勢いがつくように、強気で試合ができたことが、五人抜きにつながったと思います。

結果として、ずっと目標にしていた日本一を達成することはできませんでしたが、このメンバーで戦ってこられたこと、日頃から支えてくださる保護者の皆さん、OB・OGの先輩方、そして先生方には感謝の気持ちでいっぱい입니다。この経験を活かして、次のステージでも頑張ります。

高齢者剣道大会
二年連続三位入賞



高齢剣友会
副会長
佐伯 勝行

六月二日に日本武道館において開催された第四十七回全日本高齢者武道大会で、県チームは昨年に続き三位入賞の戦績を挙げました。先鋒佐藤倫明(筑紫、昨年も出場)、次鋒境幸浩(みやま、昨年も出場)、中堅下村健一郎(早良)、副将岩男泰明(筑紫)、大将谷矢隆男(筑紫)のメンバーでした。敗れた準決勝も〇対一、四分の一本差惜敗でした。



現在、県はどんな大会でもベスト四に入るチーム力作りを目指しています

が、高齢剣友会においても同様の目標を立て取り組んでおります。

個人戦においては、六十五歳〜六十歳の部で青木政広(粕屋)選手が準優勝しました。準決勝では、福岡出身の宮崎重明選手(元CHAGE and ASKA)と素晴らしい内容の試合展開で面を決めました。試合後は固い握手でお互いの健闘を称え合っていました。

現在、福岡県高齢剣友会は、五十五歳以上から八十代の先生方、七十九名で活動しており、二か月に一度稽古会を実施研鑽しています。次回から日本剣道形稽古を四回に分け講習いたします。

【九月】形全般の留意事項、太刀三本目迄

【十一月】太刀七本目、

【二月】小太刀三本、

【三月】仕上げ

昨年の大会では、岩立三郎大会会長から福岡県の形は素晴らしいと高い評価を受けました。お互い剣道を楽しむことを第一に研鑽しております。どうぞ多くの先生方に入会して頂きたいと思えます。準優勝された青木政広先生が事務局をされておられます。どうぞよろしく願います。



▲ 青木 政広 先生

医科学安全委員会
だより



医科学安全委員会
服巻 誠

新型コロナウイルス

今回は秋冬に向けて、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザウイルス感染症について述べます。

厚生労働省によると、二〇二三年五月〜二〇二四年四月の新型コロナウイルス死亡者は三万二千五百七十六人で九十七%が六十五歳以上。同時期のインフルエンザ死亡者は二千二百四十四人で、コロナは約十五倍の死者数でした。二〇二四年通年でも同様で、高齢者にとって重大な脅威です。若い世代でも後遺症は十〜二十%に見られ、味覚・嗅覚障害や集中力低下、倦怠感が数週間から数か月、まれに年単位で続くことがあります。近年ではコロナは二月と八月にピークを迎える季節性が明確です。

インフルエンザは二〇二四年後半から二〇二五年一月にかけて記録的流行となり、二〇二四年末の一週間だけで約三十二万件が報告され、過去最多を更新しました。これはコロナ禍でインフルエンザ機会が減り集団免疫が低下、免疫のない若年層から高齢者へ感染拡大したた

めと考えられます。

WHOも今後数年、インフルとコロナの同時流行(ツインデミック)に警戒を呼びかけています。日本では冬期、特に年末年始のインフル流行と、その頃から二月にかけてのコロナ流行が要注意期です。

剣道は飛沫・空気感染リスクが高い競技ですが、コロナ禍以降マウスシールドや面マスクの装着が習慣化し、流行のない時期には一定の予防効果があります。ただし流行期にはさらなる注意が必要です。ネットの「福岡県感染症情報」↓『週報』で流行状況を確認でき、定評あり一超で流行入り、十超で注意報、私見では五超で要注意と考えます。剣道愛好者には高齢者や基礎疾患を持つ方も多く、感染は重症化や長期療養につながります。若い稽古仲間を含め全員が状況把握し、媒介者にならぬ意識を持ち、稽古前後の体調確認、換気、衛生習慣を「自分と仲間のため」に徹底しましょう。各団体で今から情報共有と意識確認を行うことが大切です。

ワクチンも有効で、インフルワクチンは安価で副反応も少なく若い世代も接種を推奨します。コロナワクチンは高価ですが、高齢者は公費負担を利用して接種すべきです。現在は両疾患とも有効な飲み薬があり、「かかったかも」と思ったら特に高齢者は医療機関を受診しましょう。事前相談で検査の適切なタイミングもわかります。

流行期と非流行期でメリハリある心構えが求められます。

岡本 慶大

1972年5月26日、北九州市小倉北区生まれ。
 北九州市立小倉小学校(現小倉中央小学校)、
 北九州市立菊陵中学校、福岡県立小倉高等学校、
 オーストラリア・セントラルクィーンズランド大学
 経営学部卒業。
 リズム食品株式会社代表取締役。
 北九州市剣道連盟監事。



剣道で つながった人脈

剣道との出会い

小学生の頃、周りの友達が流行のガンプラ作成やファミコンゲームに夢中になっている中、虫採りや魚釣りばかりしているちよつと変わった子供でした。中学に上がるとき、父の方針で桜丘スポーツ少年団剣道部に入部しました。そこは矢野先生、大崎先生、村上先生の指導の下、百人を優に超える子供たちがいました。私の中学校には剣道部がありませんでしたが、先輩、同級生は剣道部のある中学に通っていて、日頃の道場稽古で中学生は私一人でした。

そんな中、一番年少の村上先生がよく稽古をつけてくださいましたが、背だけは高かったです。素人の私とにかく面を打たせようと、地稽古とはいえ、引き出し稽古で面ばかり打たされました。最後は掛かり稽古のようになり、体当たりを連続でさせられ、へろへろになって終わりというのが決まった内容でした。

卑屈になることなく正面から対峙することの重要性も学びました。

学生時代

そんな私も小さな大会に出してもらえるようになりまして。しかし同年代はみんな小さいころから始めていたので、たまに出られる試合も負け続きでした。素人なので仕方ないとはいえ、とても悔しくて、自主稽古をしたり、剣豪や歴史の人物の書籍を読み漁ったりしました。実はこのときに学んだことが社会人になってから大変役に立ちました。「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」という言葉・考え方に会ったのもこのころでした。また、相手(人)に對するときに、驕ることなく、ちよつど高校に進学するタイミングで村上先生が病気で急逝されました。毎週お見舞いにあがっていたのですが、毎回瘦せていき、元気がなくなっていました。結局、私が高校入学した五月に亡くなったのですが、最後に言われたのは、「剣道じゃなくてもいいが、部活に入って体を鍛えろ。そして野菜を食べろ」というものでした。身近な方の死を初めて経験しました。

子供たちにも絶対に剣道をさせようと思っていました。長男が小学一年生になるとき、年子の次男とともに「総会」に参加しました。NPO法人でもあったので、年に一度、宴会好きな先生が、生徒・父兄・指導員・OBを集めてホテルで宴会をするのです。指導員は子供たち向けのゲームや景品を用意するので、中学生たちは景品を年少の子供たちに配ります。両手いっぱいにおもちゃを抱えた息子たちは帰り道に剣道を始めることを宣言しました。

『日本一』を目指していた桜丘スポーツ少年団剣道部大崎先生のおかげで、息子たちは小学生の頃から日本武道館で試合をするという貴重な体験をしました。結局息子たちは日本一になれませんでした。が、大学生となった今でもそれぞれの形で剣道を続けています。『交



剣知愛』といいますが、剣道を通して得られた友人・人脈は、学校や仕事、友人関係などで得られたものより数段深い付き合いになるように感じています。

大崎先生も二〇二〇年に癌で亡くなりましたが、今は現役

を引退された矢野先生とはお付き合いをさせてもらっています。矢野先生の息子さんも剣道は辞めてしまいました。が、今でも公私にわたって付き合いが続いています。高校時代はできそこないの剣道部員だった私がなぜか高校剣道部OB会の会長を勤めさせてくださいたいです。これも剣道を通して人に対してちゃんと正面から向き合うことを身に着けることができたからだと思っています。



令和七年五月一日、京都で開催されました剣道八段審査会において、八段に昇段させていただきました。

これもひとえに、これまでご指導いただいた先生方のおかげであるとともに、共に稽古をしていただいた剣友の皆様のお陰であると心から感謝申し上げます。また、勤務先の方々の理解やいつも陰で支えてくれた家族にも感謝しています。

私は大学卒業後、福岡県に採用され、赴任した先が福岡県立



福岡県高体連剣道専門委員長
八女高等学校
畑江 秀彦

志を一つに

昇格・昇段

八女高等学校でした。馴染みのない土地ではじめにお世話になったのは、武揚館道場の末次正尚先生でした。剣道の技術はもちろんのこと、それだけでなく礼法や所作など、大学で学んできたものを更に深めることができました。その後、勤務の関係で学校現場を離れ、同時に剣道からも離れた時期がありました

が、居を構えた三橋町で、当時、桜武館の館長であった桜木俊治先生の指導を受けるようになりました。勝負に厳しい指導の中、大切に育てていただいたという思いが強くなります。末次先生、桜木先生の指導を受けて、成長させていただきました。

途中中断した剣道人生でしたので、七段まで取得できたことで、自分が達成できる域まで行くことができたと思っておりました。そんな中、今宿少年剣道部の山内正幸先生に声をかけてい

ただき、稽古会に参加するようになりました。山内先生のご指導をいただく中で、自分の中の意識が変化していき、八段審査に挑戦しようという気持ちが芽生えました。しかし、その後は、挑めども、挑めども跳ね返され、時間ばかりが過ぎていきま

したので、子どもが初めて剣道をする時に教わる基本から見直すとともに、教本や書物を読みながら、何をどのようにできることが必要なかを学び直すとともに、試行錯誤を繰り返しました。

審査当日は、今できることをすべて出し切ろうという気持ちだけでした。一次審査も二次審査も内容はあまり覚えておらず、後から映像を見せてもらって思い出したほどです。これまでは、技を出さないといけない、打たないといけない、そのような気持ちばかりの立ち合いだった

気がします。今回は合気で立合えたこと、お相手に集中できていたこと、技を打ち切っていたことなどが結果につながったように思います。

八段を目指したある時から、いろいろなものを捨て、志を一つにして生活してきました。

今後は八段に相応しい剣道家となれるよう、さらに精進し、次世代の育成にも微力ながら貢献していきたいと考えております。ありがとうございます。



清田 高浩

剣道と日常生活

剣道は日本の伝統文化であり、その本質を学び、修業を重ねて自然と体得していくものであります。私は小学二年生の時に「護国

少年剣道部」という道場に入門し、そこで稲津先生という先生から指導を仰ぎました。稲津先生の指導方針は、「正しく、美しい剣道」で、基本の構えや姿勢、基本の打突は勿論、日本の誇る道徳、「日常の五心」や「五常の徳」を中心に指導されていきました。当時の私は試合に勝って褒められることよりも「正しく、美しい剣道」として褒められることに喜びを感じ、中学までは基本を中心にやってきました。

その後、高校に進学し、大濠高校の剣道部に入部してからは、中原先生の指導を仰ぐこととなりましたが、中原先生の指導方針も、「正しく、美しい剣道」であり、これに「強く」を含めて「剣真」と部旗に掲げ、道徳は勿論、心身の鍛練と基本を厳しく指導され、私にとつてこの三年間は、今までとは違って厳しく、苦しいものとなりましたが、この後の私の人生に

確実に大きな影響を与えることとなりました。

社会において人間は、共同生活を営む上で自由な行動が抑制されることも多く、協調性をもって行動できるような大人にならないといけないのです。剣道では「人間形成」を目的としています。私は社会人になってからは、道場の中であれ、外であれ、関係なく日常生活において自然体として、「日常の五心」や「五常の徳」が心身に染みつくように心がけ、剣道の修業に励んでまいりました。

そして今年の五月に京都で行われた称号審査において、範士という大変名誉な称号を拝受いたしました。これもひとえに、今までご指導をいただいたたくさんの方々のおかげだと心から感謝をしています。今回、範士の称号を拝受いたしました。まだまだ未熟者で道半ばであり、正直、私のような人間が剣道の最高位で

ある範士の称号を拝受して、今後やっていけるのか不安でありますが、やっていけるのかではなく、今後は範士として剣道界の普及と発展のために、どのように責任を果たしていくのかをしつかりと考え、お役に立てるよう努力していく覚悟です。今後も皆様方の尚一層のご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。



居合道部
副会長
小田 信秋

居合道範士昇格にあたり

本年五月三日、京都での称号審査会におきまして、居合道範士の称号を賜りました。これもひとえに諸先生方をはじめ諸先輩・剣友の皆様のご指導、ご支援の賜物と心より感謝し厚くお礼申し上げます。

ます。

振り返れば、私が居合道の門を叩いて五十一年が経ちました。

中学校から剣道を始めた私ですが、就職してたまたま見かけた「居合道」の看板が気になり、その後、師となります故山下貞利範士の自宅に電話したのが始まりです。勤務地が若松でしたので区内の松野道場での稽古が始まりましたが「剣道やってるならば素振りには出来るよな？」それから半年間、行っても行っても素振りのみ。その間、得物が竹刀から模擬刀に代わりましたが、素振りは相変わらず。

半年経ったある日にいきなり「そろそろ良かろう。初発刀行くと今のご時世では無茶ぶり」と言うのですが、師曰く。「今まで半年間、素振りしながら見えてきたから分かるだろ？」です。

その頃は何とも思わなかった、いや思っても口にできなかつた

稽古でした。

兄弟子の松野晋輔先生から道場での少年剣道の応援要請もあり、会社内の剣道部活と少年剣道、居合道稽古と違った感触での修業をさせて頂きました。

勤務の都合で三年間、福岡を離れましたが、新規事業の立ち上げで福岡にUターンすることになり大牟田に赴任しました。

師にその報告をしたところで、月に一、二回北九州での稽古を確約して故山下正光範士に「預けられの弟子」として迎えて頂くことになりました。両先生とも全日本居合道大会七段の部にて優勝された凄腕先生・という県外の先生からの羨望の眼差しで見られていたのも覚えておきます。

「全国に通じる居合」が口癖の山下貞利範士。「末次流」を固持された山下正光範士。

私はその両方の流れを後世に伝える役目を担っていると思つて



指導にあたっています。

三月に実施している「全国各流居合道北九州大会」も今年度で第五十回の節目を迎えます。少し趣向を凝らした大会にしようとする方面にお願いに回っているところですが、早く纏めたものを提示して、福岡県剣道連盟及び北九州市の後援、また居合道部会員の皆様のご理解、ご協力、ご支援を取り付けたいと考えています。

これからも私の出来ることを私なりに考えて実行していく、そして少しでも会員の皆様にご指導にてお返しし、その中で私も一緒に学ばせて頂く所存です。

今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。



昇格

剣道「範士」(令和七年五月六日)

清田 高浩

剣道「教士」(令和七年五月六日)

栗原 浩一
久保 博子
手塚 潤司
木戸 勇一
貴戸 良幸
竹井 直也
納富 慎二
緒方 大樹
宮本真沙代
西村 信也

剣道「錬士」(令和七年五月六日)

溝口 隆夫
福田 治雄
中本 幸範
重松 一成
岸野 裕子
坂田 修二
木龍 秀孝
大戸 龍太
久山 賢治
藤瀬 紀英
青木 道裕
御厨 倉生
波多江みのり
北島 高信
橋本好次郎
仲西 靖之
寺坂 聡
井上 晋祐
中原 武伸
岩佐泰一朗
竹田 光樹
崎野 勇介
桜井 研司
新地 真也
酒井 裕史
藤田 哲也
馬場 祐輔
草野 英也

五段以上合格者

昇段

吉川 真由
田村 和成
野口 諒太
立石 哲平
後藤 啓介
小川 和也
齊藤 良太
鈴木 颯汰
山近健志郎

居合道「範士」(令和七年五月三日)

小田 信秋

居合道「教士」(令和七年五月三日)

野田 尚徳

居合道「錬士」(令和七年五月三日)

上野 二
横田 篤史
ジェームズ ジャック

杖道「錬士」(令和七年五月三日)

花田 實

剣道「八段」(令和七年五月一日)

畑江 秀彦

剣道「七段」(令和七年四月三十日)

橋本 淳司
吉永 綱
川上 陽平
海老名昌徳
松岡 圭晋
早川 昌宏
渡部 晃史
酒井 靖子
酒井 誠史
曾木 堅登
松崎桂一郎

剣道「七段」(令和七年五月十日)

白石 明生
末廣 和祥

剣道「七段」(令和七年八月二日)

田原 政昭
横溝 憲治
宮内 孝明
西嶋 直幹
石津 和代
佐藤正次郎
田尻 道生
川口 敏惟
大藪 久
内野 譲二





吉次 雅彦
 新谷 秀生
 中原 敬典
 須藤 義宣
 渡邊賢一郎
 岩田 吉弘
 松崎 幸臣
 萩原 靖崇
 緒方健一郎
 岩見 聡
 古賀 洋次

三木 敬介
 南竹 宏樹
 塚本 浩一
 西頼 慎悟
 上田 謙次
 大淵 達也
 久保山崇之
 大野 博道
 白石 恵太
 税田 健司

剣道「五段」(令和七年八月十日)

木下 将大
 平井 仁志
 本山 翔太
 西村 駿平

寺山 朋徳
 糸山 亜美
 橘 亮二

居合道「七段」(令和七年三月一日)

善明 永吉

居合道「六段」(令和七年三月一日)

成定 裕造 ... 上月 芳樹

居合道「六段」(令和七年六月十七日)

森田 明美

剣道「六段」(令和七年四月二十九日)

西原 芳弘

剣道「六段」(令和七年五月十日)

齊藤 太

剣道「六段」(令和七年八月三日)

今村 芳文
 田原 栄治
 石田 光明
 大久保 敦
 山口 喜保
 宮本 浩二
 長濱 恒
 梶原 徹

浦上 貴文
 三原 朝利
 荒瀬 裕仁
 牧園 道学
 井上 京子
 宿理 知彦
 鎌倉 優門
 原田 和樹

中山 正吾
 百村 真紀
 山本 聡
 神田 政孝
 大田 教貴
 笠置 功
 長尾 由佳
 松永 大宗
 岩本 貴志
 植田 将広
 深江 俊雅
 阿部洪太郎
 服部 英喜
 吉本 裕太
 嶋田 郁乃
 濱田健一郎

山内 豪
 尾川 創史
 高井 雄貴
 藤戸 崇生
 馬場 康平
 平田 知聖
 野田 昂志
 小嶺 俊也
 上村 紘楓
 林 勇氣
 田中 啓太
 村上 葵衣
 嶺 拓弥
 大淵 康
 濱地 慶一



居合道「六段」(令和七年六月十七日)

森田 明美

編集後記

一瞬真つ暗になる試合場、煌めくような照明と共に決勝戦に臨む選手一人ひとりが紹介されていく。玉竜旗大会が他の剣道大会と別格に映るのはこのような演出も大きいと感じました。

剣道を好きになる理由
 由は人それぞれですが、取材を通じて「誰もが憧れる檜舞台がある」ということの素晴らしさを改めて実感しました。

(広報委員会…佐伯、金子、小田、鬼木、本多、石井)



杖道「五段」(令和七年六月一日)

井上有紀子

杖道「六段」(令和七年八月十五日)

橋本 能弘 ... 甲斐田広文
有持 正信 ... 江藤 知徳

杖道「八段」(令和七年五月三日)

金村 真理